



平成 18 年 11 月 1 日

各位

会社名 株式会社ディー・ディー・エス
代表者 代表取締役社長 三吉野 健滋
(東証マザーズ・コード番号 3782)
問合せ先 取締役管理本部長 藤浪 育夫
電話番号 052-533-1110
(URL <http://www.dds.co.jp>)

韓国 DigitalSecu 社との資本提携に関するお知らせ

当社は、平成 18 年 11 月 1 日に、DigitalSecu Co.,Ltd.の実施する第三者割当増資を引受け、また同時に主要株主からの株式譲渡を受けることにより、同社株式の 18%を取得し、資本提携を行うことを決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 株式取得の理由

当社は既に当社子会社（DDS Korea, Inc.韓国）を通じ、販売代理店契約を締結しておりましたが、今回、株式を取得する理由は以下のとおりです。

- (1)資本提携による連携強化により同社の持つ銀行、官公庁への販売チャンネルを利用した当社指紋認証製品の更なる拡販
- (2)同社製品（ログサーバー）と当社指紋認証製品の組合せによるシステムの販売
- (3)韓国に於ける製品開発力、SE 体制の早期確立と SIer としての機能の獲得

2. 韓国 DigitalSecu Co.,Ltd.の概要

<会社概要>

- | | |
|-------------------|--|
| (1)商号 | DigitalSecu Co.,Ltd. |
| (2)代表者 | Chang Kyung-Soo、Lee Won-Seok（共同代表者） |
| (3)所在地 | 88-7 Nonhyeon-dong, Gangnam-gu, Seoul, Korea |
| (4)設立年月 | 2000 年 4 月 12 日 |
| (5)主な事業内容 | ログサーバーの販売とソフトウェアの開発、販売 |
| (6)決算期 | 12 月 31 日 |
| (7)従業員数 | 20 名 |
| (8)主な事業所 | 所在地に同じ |
| (9)資本の額 | 1,538 百万ウォン（邦貨換算 約 184 百万円） |
| (10)発行済株式総数 | 307,700 株（第三者割当増資前） |
| (11)当社取得株式および所有割合 | 61,385 株（18%） |

<DigitalSecu 社の実績、特色>

DigitalSecu 社は韓国のセキュリティーマーケットにおいて以下のような実績及び特色ある製品を持っております。

ログファイル管理システム「Logsaver」とは？

ネットワーク機器、サーバ、アプリケーションの動作状況やユーザーの接続、操作記録等の情報を記録したファイルをログファイルといい、ログファイルには「不正アクセスの情報」、「情報流出の情報」、「システムダウン前の兆候」、「事故発生後の証拠資料」など、インターネットセキュリティの安全性を維持・確保する上で、大変重要なデータが蓄積されます。

事故の原因追求や犯行者の特定などには適切なログファイルの管理が必須であり、具体的には正確なログの記録、周期的にログを解析することが必要となります。

しかし、通常ログファイルはまずハードディスクに記録される為、第三者（内部使用者）による改ざん（消去）が可能であり、改ざんされたログを解析しても全く意味がありません。

これに対し、同社のログファイル管理システム「Logsaver」は、ハードディスクに生成されるログファイルが改ざん・削除されるのを防ぐために、書換え不可能なメディア（CD-R）にリアルタイムで記録し、ログファイルの無欠性を保証します。また、ログ分析ツールを利用して様々な侵入トライまたは内部使用者の不正使用の証拠を確保するログファイル記録・分析ソリューションであり、ログファイル管理に関する上記の欠点をカバーする製品となっています。

「Logsaver」の採用実績

韓国版 SOX 法では、内部管理体制構築のために適切なログファイル管理システムが義務付けられています。同社は 2005 年 8 月に財政経済部の国家財政情報システムの保安強化事業者に選定されており、「Logsaver」は同法の中で推奨システムとして明示されているほどオーソライズされた製品となっています。

こうした信頼性の高さから、農協、農協中央会、新韓銀行、新韓生命、KT（Korean Telecom）といった韓国の官公庁、金融セクターなどの有名企業に対し豊富な納入実績を誇っています。

3. 引受の内容

- (1) 払込期日（予定） 平成 18 年 11 月 7 日（水）
- (2) 払込金額 1,800 百万ウォン（邦貨換算 約 220 百万円）

4. 今後の見通し

上記取得理由に挙げた事業拡大に向け一層注力してまいります。売上、利益に対する影響は現状では未定であり、今後明らかになり次第、随時発表してまいります。

5. ディー・ディー・エスの海外展開

ディー・ディー・エスは、今回の資本提携以外にも韓国において積極的な事業展開を行っています。

本年 2 月に当社初の海外所点である韓国販売子会社 DDS Korea を設立。弊社の指紋認証技術に対する注目度は韓国においても極めて高く、2006 年 4 月に開催された「韓国 Security World 2006」においては多くの訪問者にお集まりいただきました。

また、既に納入実績がある韓国第 2 位の携帯電話機器メーカー「Pantech&Curitel」に対しては、本年 5 月に発売された中国、ロシア向けの次世代 GSM 新機種「G-6200」にも当社の指紋認証アルゴリズムが搭載されており、今後の売上拡大が見込まれます。

システム事業においては、韓国の大手銀行の社内向けセキュリティシステム導入に関する商談がスタートしたほか、組み込み事業では大手電子ロックメーカーや電機、自動車メーカーとの商談も進行しており、ソフトの現地語化も進め積極的な営業を展開してまいります。

また、「Net & Plus」社とテクニカルサポートに関する契約も締結し、セキュリティニーズの高い韓国市場において着実に事業基盤を構築しております。

韓国以外では、本年 5 月に 2 つ目の海外販売拠点となる駐在員事務所を上海に設立いたしました。これからも、海外を含めたバイOMETRICS のリーディングカンパニーを目指して、韓国、中国を中心としたアジアにおける海外事業を本格的に展開してまいります。

以 上